



1円だった受験料

江宮隆之

人生を振り返って大事な受験は五回あった。

高校受験(バス)。大学受験(一勝一敗、つまり一浪)。運転免許試験(バス)。就職試験(バス)。国立大学を滑ったお陰で翌年には神田御茶ノ水にある私立大学に入学できた。

私立大学の受験科目は三教科。国語、英語に世界史を選択した。日本史は歴史上の人物の名前を漢字で完璧に覚える自信がなくて放棄した。世界史は範囲は日本史よりも広いが、その分浅い。何よりも、民族の移動や地域の紛争が、そのまま隣国に伝播して新しい動きが生まれるという、歴史のダイナミズムが、勉強していく面白くて仕方がなかった。

さて、その受験料のことである。

昭和43年(1968)の冬。受験のために上京した。単独の上京は高校1年の秋、東京オリンピック・陸上競技競戦以来であった。私立ばかり三大学を受験したので、受験料は合計で1万5千円になった。ということは、一校当たり5千円だったことになる。ちなみに当時、国立大学の受験料は1,500円だった。

親父のすねをかじっての一浪だったから、受験も可能性を考えて最低限に押さえる歩行息子であった。

しかし、この受験料。5千円という値段は高いのか安いのか。問題は大学の教授たちが作成する。お金が掛かるのは答案用紙の印刷代、紙代に受験要員、後は試験場の光熱費くらいではなかったか。すると、1学部に数千人も受験者があるところでは実費だけなら、今だって5千円はかかるまい。

早稲田大学が、人気のある女子タレントを推薦入学させた。年々受験者が減少しているために、客寄せパンダにしようという魂胆だ、と穿った見方も。あの早稲田が、という嘆きさえ聞こえる。そうだ! あの頃の吉永小百合とは違うのだ。小百合君は、大学検定試験を受けての早稲田入学だったのだから。

ところで明治35年の早稲田の受験料は1円だった。慶應も同じ。昭和21年には20円という記録がある。それが今年度は3万5千円だという。すると、早稲田の今年の受験料は、客寄せパンダ効果で、1万人増えたとしても…えっ!えっ?

■1948年山梨県生まれ 第13回歴史文学賞 第8回中村星湖賞受賞 「東てるね」「白猫の人」「経済記」など 近著に「一葉の歌」(河出書房新社刊)

受験天国もあるもんだ

古屋久昭

受験といえば、その後にくる言葉として、お決まりどおり「戦争」、「地獄」が双壁である。この苛酷な「戦争」や「地獄」を体験、乗りこえて、晴れて栄冠を手中にすることができる。幸い私は「戦争」も「地獄」も知らない、始めからそんな道を避けて逃げて無視してきたご苦労なしであるから、「戦争」に明け暮れ、「地獄」をのたうちまわっている受験生たちに大いに同情を寄せるのである。

一何言っているんですか、同情してあげたいのはこっちですよ。「戦争」や「地獄」から這い上ったあの「恍惚感」、たまんねえなあ。もう死んでもいいやっていう気持ち、分かんねえだろうなあ。

「恍惚感?」、そんなものに酔いしれたまま入学なんかするから勉強をしない学生がうじゃうじゃいるのや。

いずれにしても、猫も杓子もやれ大学だ、短大だ、というわけで、二人の我が娘も人並みに「大学へ行きたい」などと言いました。「ダメダメ、お前たちには学力もないし、親たちにはお金がない、ないないづくしではせいぜい短大だな」。

かくして上の娘は県内の短大へ、下の娘は東京の短大へ行ったのだった。東京受験のとき、1箇所は私が付き添うことになった。すでに2箇所を受験して、手ごたえを感じていた娘は、余裕の様子だった。

その日も寒い日であったが、娘と二人っきりで東京へ行くなんてもちろん初めてのことであったせいか、気持ちの方はボカボカするばかりであった。

試験には乗々間に合わせようと、前日のうちに上京した。予約しておいたホテルに二人で入った。見ようによつては中年男と若い女の子とのアバンチュールを楽しむカップルである。

カギを受け取って部屋へ入る。さあ二人きりになったぞ。とはいえ、実の我が娘である。ドキドキという楽しみがある訳がない。世にいう近親相姦などできるわけがない。

一あたし、ちょっと街を散歩して来るからね。

ルンルン気分でも娘は部屋を出て行ってしまった。そしてその夜は父娘それぞれの夢を見ながら眠りについた。

我が娘とこんないいひと時を過ごせたのも、受験のおかげである。

■1943年御坂町生まれ 日本現代詩人会会員 日本現代詩歌文学館評議員
詩集に『落日採集』ほか 童謡集に『由らしく花らしく』 エッセイ集など

息子の受験

岩崎正吾

京都は嫌いだというと、かなりの人が驚く。現在も依然として、京都は人気のある観光名所だからである。わたしは京都人の懐懐さが嫌だ。口では「おいでやす」と愛想よく言いながら、腹ではそっぽを向いている感じがする。思うに、東国者が都に抱く屈折した気持ちが、遺伝子を通してわたしの体に伝えられているのではないか。しかし、時には取材で京都に行かなければならない。そんな時も、ついでにどこかへ廻ろうという気にはならない。用をすますと、わたしはさっさと新幹線に乗る。

何年か前、息子が京都にある大学を受験することになり、わたしも付いていくことにした。息子を京都に一人でやることが心配でもあったが、ついでにわたしも取材したいところがあったからである。息子が受ける大学は、わたしの取材地と目と鼻の距離にあり、こんな好都合なことはなかった。

息子が問題に脱汗を流しているだろう間、わたしは花園にある妙心寺を訪ねた。朝から午後遅くまで、時間はたっぷりある。広大な境内を、わたしはていねいに見て廻った。

かねて聞いていた明智風呂は確かに実在した。江戸時代の初期に、明智光秀の遺徳をしのんで建てたというものである。妙なものを建てたと思うが、入って驚いたことにはサウナ風呂であった。下に大きな釜があり、湯を沸かして湯気を立てる。二階はスノコの床になっていて、人々はそこに入り立ちのぼる湯気に当たる。

妙心寺には、齊藤利三夫妻の墓もあった。明智光秀の腹中の腹心、同じ美濃の土岐一族の出といわれる。京都花園の妙心寺本山と光秀の関係は明白だ。その妙心寺の甲斐における拠点が恵林寺であり、快川和尚は妙心寺本山の法主をつとめたこともある。甲斐と光秀は、妙心寺を間に強い結びつきがあった。

よし、これで書けると、その日、わたしは確信した。息子はその時の受験に失敗し、東京にある大学に進学した。京都まで行ったのは息子には無駄足だったが、お陰でわたしは『信長殺すべし』という小説の構想を得たのだった。

■1944年甲府市生まれ 小説家 長編歴史ミステリー「異説本駒寺・信長殺すべし」が講談社文庫として再刊 新しい信玄を描いた長編歴史エッセイ「武田信玄はどこから来たか—武田騎馬隊の謎を追う」(山梨ふるさと文庫刊)が話題を呼ぶ

倍率五を突破

佐藤真佐美

厚かましくも、しょっぱなに宣伝をさせていただく。小学校高学年向けの拙著に『シレットクのシルバー』(草薙社)というのがある。自分でいうのもおこがましいが、かなりいいだけで、ぜひ近くの書店に注文して、クリスマスとかお子さんの誕生日のプレゼントに…。というのも、子どもたちの活字離れが進み、童話作家の博物館行きが決まったという情報が…まさか。

終戦直後に東京・横浜から、大勢の人が知床へ移住してきた。緊急開拓者といった。ある日鶴が盗まれるという事件が起こった。イタチにやられることはしょっちゅうなので普段なら気にもとめないのだが、雪の上に地下足袋と立ち小便の跡があった。知床のイタチに地下足袋を履いたり立ち小便をする習慣はない。翌日駐在所に小学校四、五年生くらいの男の子が保護された。開拓者の家族にまぎれて漂着した浮浪児だった。少年はぼくの親戚の家の養子となり、小学校で同級生として数か月を過ごす。かれは『宝島』とか『トム・ソーカーの冒険』などの話を知っていた。話に魅せられ「将来は作家になりたい」という夢を抱くきっかけが、かれとの出会いであった…ということを書いた作品である。

作家になるにはせめて高校くらいは…と思ったが、貧しい開拓農民に現実は厳しい。あきらめていると「これから農業は高校くらい出なきゃ」と、父が物わかりのいい演説をぶち、四百キロ離れた札幌の農業高校を受験することになった。担任が「競争率は五倍だぞ」まず無理だろうという感想を言外ににじませ、手続きをとってくれた。面接試験場での風景。「寝小便をするか」「しません」「帰ってよし」ぼくは呆然。内申書の評価が悪かったな、と担任を恨んでいると、合格通知がきた。

入学してわかったことだが、その学校は全寮制で寝室は二段ベッドになっている。上で寝小便をすると下が迷惑するので、まずそういう癖のある人物は除かれ、次に農家の跡継ぎなら無条件入学。なお父は当時五人目の妻と別れ六人目の結婚話を進めていた。思春期の子に反対されるとまずいと判断し、息子を遠くへ追っ払う計画を立てたのだった。父は亡いが七人目の母は健在。

■1939年北海道生まれ 日本児童文学者協会・日本洞窟学协会会员 著書に『怪奇! 大東京妖怪ゾーン』(ボブラン社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社) 近著に『シレットクのシルバー』(草薙社)『山梨の童話』(リブリオ出版)など

見近な生活派の図書館
パソコンで聴く「方言コーナー」も…
時代に提案する八ヶ岳大泉図書館

ゲスト

こばやし ゼコウ
小林 是綱 氏
八ヶ岳大泉図書館館長

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

これからの方針とは…
キーワードは「知の誘致」

早野 図書館が今、注目されています。山梨においてもここ10年ほどで10館を超える図書館が開館し、現在、県立図書館をはじめとして30館があります。昨年の7月18日にオープンした八ヶ岳大泉図書館はその29番目の新しい図書館です。新しい図書館であるとともに、もっと

も新しい性格をもった図書館として全国から注目されています。

館長さんは「知の誘致」ということを提案されていますね。

小林 これまで町や村では、産業誘致や工場誘致ということに力を注いでいました。ところが、振り返ってみれば、それは公害誘致や、重んだ都市誘致ではなかったのかという反省があります。では、何處に活路を見出していくらよい

のでしょうか。21世紀の地方は「知の誘致」の時代に変わるべきだ、というのが私の基本的な考え方です。

早野 その理想を具現化されたのが八ヶ岳大泉図書館ですね。国語学者の金田一春彦先生の蔵書が並ぶ「金田一春彦ことばの資料館」、コンピュータを使っての「日本の方言コーナー」、また、県内ではじめての自動貸し出し機を利用した夜10時までの貸し出しと、独自の運営スタイルも革新的です。

金田一先生との縁は幸運でしたね。

小林 金田一先生は大泉村に別荘をおもちで、たいそう村を愛していただけております。図書館を創るにあたって、ぜひ、先生の著作をコレクションしたいと切望しました。山田村長を先頭に何度も打ち合わせを重ねた末に、先生は快くこちらの熱意を汲み取ってください、2万点にものぼる膨大な蔵書をお引き受けするという運びとなりました。

早野 「知の誘致」には頗ってもない求心力ですよね。

小林 金田一先生の蔵書の大半は日本語に関する資料です。ことに方言研究、アクセントに関する一級の資料を揃えていらっしゃいます。とりわけ面白いのが、仏教の声明と平家琵琶の資料です。



早野 潔

■小林是綱

1944年生まれ
1970年立正大学大学院文学研究科満期退学
1976年『山梨百科事典』項目執筆
1987年石和町立図書館長
1994年山梨放送番組審議会委員長(95年まで)
1998年八ヶ岳大泉図書館・金田一春彦ことばの資料館館長
『県立図書館の役割と実践—郡道府県図書館の実践実例集(文部省編・発行)』執筆協力
『情報社会とこれからの公共図書館—平成9年度文部省補助事業調査研究報告書』分担執筆
ほか図書館関係書に執筆を担当

声明や平家琵琶の語りのなかには、日本語のアクセントの原形が隠されているのです。

金田一先生は1913年、東京・本郷のお生まれです。今年は86歳になられますが、NHKのアナウンサー養成所で指導されたり、アクセント辞典の編集をされたり、用語委員も務められてきました。全国各地で方言研究をされ、鎌倉時代のアクセントを調べようと真言宗の声明を学ばれ、また、平家琵琶の譜本を読むため平曲を習われ、とうとう平家琵琶の继承者になられたという方です。

早野 貴重な資料を得て、館長の企画力も、いよいよ發揮されていくわけですね。

小林 建設にあたっては、早野組さんにもたいへんご尽力いただきました。

■ 金田一春彦先生との出会い
全国初の「方言コーナー」

小林 金田一先生の資料館を計画するにあたって、いろいろアイディアが生まれました。これまでの文字を通したものだけではなく「耳」で確認できる方言資料館を創りたいと意欲をもつようになりました。これは日本ではじめての試みです。金田一先生の監修で、NHKが1972

年に「全国方言資料集成」というのを作りました。赤いゾノシートで、全国の方言を収集した貴重なものです。これをデジタル化して、コンピュータ処理し、今の人たちに分かりやすく聴かせたいと考えたのです。

早野 言葉の変化が著しい現代ですから、有意義ですね。若い人たちと話していると、ことに気になりますね。「ゲーム」を「ゲーム」「サークル」を「サニクル」と、アクセントを強めるところがずれてきています。

小林 ぜひ、日本の方言コーナーにお遊びに来てください。コンピュータを押していただくだけで、北海道から沖縄までの朝の挨拶、お礼の挨拶、また、お祝ごとやお悔やみごとの挨拶、親しみのある日常会話を聴くことができます。もちろん、大泉の生きた方言も収録されています。



小林是綱 氏

さらには、北海道の方と沖縄の方をパチャリで対談させることもできます。金田一先生が出題される方言クイズといったユニークな趣向もあります。あらためて、言葉というのは文字だけではない、伝達手段としては音声が最も重要なことを実感させられますね。

早野 面白さ、楽しさが、学ぶことのはじまりだという発想もいいですね。そもそも館長は、かねてより図書館の革新者として広く知られていました。石和図書館を手がけられたときは、生涯学習社会の到来を早くも予知されて、人口約1万9千の町でありながら、1千800m²という図書館を創られました。当時の市町村においては甲府市立図書館が一番広かったのですが、800m²に満たなかったですね。

小林 周囲からは本を読まなくなったり時代だから閑古鳥が鳴くぞと冷笑されも



しましたが、私としましたら狭いくらいであると感じていました。

早野 ところが結果は周知のとおりで、県内ではもちろん当時では1番、全国でも5番目という貸し出し数を記録し、注目を集めました。今では当たり前のことになりましたが、ビデオテープの貸し出しということを全国に先駆けておやりになりましたね。

小林 図書館のあり方をめぐって、このとき論議が高まりました。たとえば、映像文化は活字離れをさらに深刻にする、といった記事も新聞に掲載されたほどです。笑い話ですが、ビデオからアダルトビデオを連想して、PTAのお母さんたちから抗議を受けたりと、その反応はさまざまでした。しかし、映像も情報を伝達する手段であり、図書館を身近にする契機とはなっても、決して図書館機能を低下させるものではないと信じていました。

大切にしたい感動の言葉 「開かれた図書館」づくりへ

早野 ビデオはいまや何処の図書館でも常識になっていますね。もう一つ、館長の「開かれた図書館」づくりの提唱も、いまや何処の図書館でも第一に挙げる共通テーマとなりましたね。

小林 私たちの子供の頃から、図書館というのは学生が勉強するところ、研究者が調べものをするところであり、静かで、緊張を強いられるという雰囲気がありました。このイメージを一掃して、明るく、賑やかで、そして開かれた図書館にしたいというのが、かねてからの願いでした。

たとえば、子どもがお母さんから本を読んでもらっています。面白いところにきたら、子どもは思わず感動の声を上げますよね。そのときに職員が、口の前に指

を立て、静かにしなさいとさえぎってしまったらいけませんよね。それはまさに、ひとつのがんが導き出されている瞬間なのですから。これが賑やかな図書館の基本でしょう。

開かれた図書館というキーワードに託した考えは、図書館はひとつの地域だけにとどまらず、隣接した地域の人たちにも広く利用していただきたいというものです。文化には町境はないという発想です。

早野 そうした21世紀の図書館づく

りに指針を示され、さらに夢をかたちにされたのが八ヶ岳大泉図書館ですね。そのネーミングにも、地域を超えた大きさと、発信されている意味合いが象徴されています。

八ヶ岳を望む素晴らしい自然の地ですね。「いずみフレンドパーク」の名のもとに、図書館、プール、児童館が併設されています。図書館には絵本やコミック、新聞、雑誌にいたるまで取り揃えられ、また、ビデオやCD、コンピュータはCDー

ROMやインターネットの利用も可能です。図書の方や職員の方の親しさがいいですね。知りたいこと、調べたいことに、快く対応してくれます。利用者の立場に立ったシステムの改善も斬新ですね。多くの図書館の定休日である月曜休館をおやめになりました。まだまだありますよね。

画期的な夜10時までの開館 利用者のニーズに応えたい

小林 いま行政では盛んに地方分権

とか規制緩和をうたっています。ところが、住民にはなかなかこれが具体的に見えてきません。それなら、図書館で、この地方分権や規制緩和ということを具体化してみようと考えました。そのひとつの表われが、月曜休館の廃止と夜10時までの開館です。

月曜日というのは1週間のはじまりであり、そのはじまりの日が休館では利用者には不親切ですよね。また、通常の休みは毎月末日のみとしました。これにより、利用日数は大幅に増えました。自動貸し出し機を設置しての夜10時までの貸し出しも先進的なものです。

早野 利用者は磁気カードと暗証番号を使って借り出しができるわけですね。これは大歓迎ですね。多くの図書館は現在も午後5時で閉館となりますから、働いている人は利用できません。ことに男性には不向きです。

小林 大泉村では昼間は村外に通勤している方が多いので、仕事後の自由な時間に図書館を利用できる仕組みを整えておくことは、余暇時間へのサービスになります。

早野 農家の方が、仕事帰りに気軽に図書館に寄られる光景というのは、いいですね。周辺は別荘も多いので、地域



のニーズによく応えたシステムだと感心しています。

小林 図書館にプール、児童館を併設した「いずみフレンドパーク」は、この地に新しいライフスタイルを芽生えさせています。

たとえば、プールで泳いだあと、図書館に来て読書をする方が増えました。読書も水泳も、ともに個人志向のパーソナルなものですよね。文化ホールや音楽ホールはいわば集団型施設です。つまり、読書と水泳はうまくリンクして、個人の暮らしを高め、促しています。図書館と児童館も、子どもたちの夢と希望を育むという共通テーマで結ばれています。

早野 これからの暮らし方、大切にしなければならないものが見えてくる施設ですね。提案に満ちあふれていますね。

小林 図書館というところは、供給が必要を生むところなんです。これは経済の論理とは違うんです。一般的に商売というものは、需要を見越して供給していく。一方、図書館は需要が潜在的に不透明です。

しかし、供給することによって、需要が生じます。知の世界が広がっていくのです。私は図書館というのは、供給が需要を生む施設だと考えています。

抱負は「常識を変えたい」「メディアパーク」への夢

早野 開館されて、半年ですが、利用者の反応はいかがですか。

小林 貸し出し冊数でいいますと、5千人以下の村での統計では、おそらく全国でも断然トップであろうかと思います。また、利用者のエリアでいいますと、沖縄の方も利用されています。

インターネットで図書目録の情報を流していますから、利用者は全国に拡大しています。

早野 ご苦労を振り返り、ほっとして迎えられた正月ですね。いかがですか。

小林 ある日、ふと、図書館に来ていたお父さんと息子さんの会話が耳に入りました。お父さんが息子さんに「この図書館はいいね」と言葉をかけました。

きっとお父さんは、建物の立派さ、雰囲気、設備内容の素晴らしいところをトータルにいったのだと思います。

ところが、息子さんはこう応えました。「そうだよね、お父さんと来れるから」。

この言葉は、私の、また、八ヶ岳大泉図書館の応援歌に聞こえました。ああ、図書館を10時までの開館と決断してよかったです、そう思いました。

早野 いいお話ですね。さて、今年はどんな抱負をおもちですか。

小林 「常識を変えたい」というのが、私の座右の銘です。

早野 そのキーワードで、石和図書館では先駆的なビデオテープの貸し出しということをしました。八ヶ岳大泉図書館ではひとりで勝手に入れる図書館を創りました。また、夜10時までの開館を実現しました。いずれもこれまでの図書館の常識を変えるものでしたね。

これから図書館はどう変わりますか。また、どう変えていきたいですか。

小林 生涯学習社会がさらに進み、学習のニーズは高まり、多様化、高度化していきます。図書館はこれに適切、迅速に対応していかなければなりません。新しいメディアを使った情報サービスの領域も広げていかなければなりません。

これからの図書館は「メディアパーク」というべきものになっていくのだとイメージしています。メディアの公園ですね。訪れた人が公園の中で遊び、自由に発見をしていく図書館です。

早野 八ヶ岳大泉図書館には、すでにその発想が込められていますね。

21世紀の図書館の卵のようですね。【構成：三神 弘】

IZUMI FRIEND Park

いずみフレンドパーク

- 八ヶ岳大泉図書館
- いずみプール
- いずみふれあい児童館

〒409-1502 山梨県北巨摩郡大泉村谷戸3000
TEL 0551-38-1211 FAX 0551-38-1126

知ることのよろこび、学ぶことのたのしさ、語ることのあわせ。

八ヶ岳大泉図書館はそんな夢をかなえてくれる情報のひろばです。本はもちろん、動画やコミック、新聞に雑誌、ビデオやCD、それにDVD、コンピュータはCD-ROMやインターネットの利用も可能になりました。図書館はオーケストラです。指揮者(利用者)によって音楽がかかるります。あなたの好きな音色で奏でてください。



四季折々の花が咲き、季節にあった風が吹く。
小鳥たちは高原の歌をうたい、ひとびとの語らいを誇る。



図書館へのプロムナード、プール帰りの夏の陽射し、児童館へお迎えに来た母の手の温もり、そのどれもが思い出となって、人生の一頁となるでしょう。



子どもからおとなまで、水泳技術の向上に、健康増進にと、おもいおもいの使い方で、だれもが水と親しむことができます。

■図書館のニイシーリング組み

小林 是綱

ホットウイスキーを傍らにおいて依頼原稿を書いていたら、下戸の妻が「そのお酒ナリの?」と聞いてきた。「いや、ナルクないよ」と、答えた私は、その言葉の温もりの中に遠い少年時代を思い出した。「兄ちゃん、もっとナルク珠、投げて」と、兄に頼む自分の姿を…。
甲州方言は形容詞の宝庫だ。(モモッタイ)「くすぐったい」、(ヒドロフタイ)「恥しい」、(ヤブセッタイ)「煩わしい」、(ヨタイ)「悪い」、(ニインー)「新しい」等々、共通語では表現できない微妙な語感をもつた言葉が多い。しかし今、共通語化の流れの中でそのすべてが消されてしまいそうだ。
金田一春彦ことは資料館では、そんな方言を後世に残そうと、パソコンで北海道から沖縄までの日常語を記録・保存し、やさしい操作で活用できるようにした。美術館や博物館が方言を「展示資料」の範疇にいれないのならば、地方の図書館がこれに取り組むべきであろう。
そんな挑戦が全国の図書館に理解される日を夢見て、今年もまた、兎と一緒にトンでみよう。

地球的規模での経済復興と
環境問題への取組が至急

日本はアジア諸国への経済援助を積極的に 注目される“ユーロ”の誕生

地球的規模での環境問題 への取組と解決を

昨年は世界的な規模で異常気象(エルニーニョなど)や、大地震という自然災害に見舞われ、多くの被害をだした。異常気象の一つの原因として、地球の温暖化があげられているが、われわれが日常生活の中で何気なく使っている、消費物資のなかに地球温暖化を促進し、地球環境を破壊しているものも多い。たとえば、エアコンの冷媒、電子部品の洗浄剤、スプレーの噴霧剤に使われている、無色無臭で無毒のフロンは、産業界からは救世主のごとく評価された。しかし、フロンには生き物を紫外線から守っていた地球のオゾン層を破壊する、目に見えない“逆作用”があることは意外と知られていない。

経済危機に見舞われる アジア諸国

つぎにアジア地域に目を向けてみよう。アジア地域のなかでも、ここ30年間、目覚ましい経済成長を遂げ、「タイガ」とか「ドラゴン」と呼ばれてきた東アジアの新興工業国・地域は、一昨年の夏に起こったタイ・バーツの急落を契機に、軒並み深刻な通貨・金融不安に

の物質を、いまさら除去することは不可能に近い至難なことであるが、このまま放置すれば、全世界が環境ホルモンによる被害で憂慮してしまう。温暖化ガスの排出による地球の温暖化は人間社会だけでなく、自然界にも深刻な影響を与えており、海水温度の上昇によりサンゴ礁が白化し、終にはサンゴを死滅させてしまう。環境問題は世界各地で発生している、地球規模での解決策が急がれている問題である。環境問題への「安全と安心感」がなければ、充実した社会生活を送ることができるのはもちろん、自然との共生・共栄も難しくなる。21世紀にむけて今人類がやらなければならぬことは、環境問題への取組とその解決策を生み出すことである。

見舞われている。目下のところ、どこも教済実施の見返りに、国際通貨基金(IMF)などが課す厳しい諸改革に取り組み、経済の建て直しに懸命である。かつては「アジアの経済的奇跡」とか、「21世紀の世界の成長センター」などと称賛された、これら東アジア経済は、現在の危機を脱することができるであろうか。

IMFはこれらの国々の教済に乗り出したが、インドネシアや韓国、タイに対する一括教済策で過度に緊縮的な財政・金融政策を要求しているとして、広く批判されている。IMFの处方箋はそれまで、財政・金融政策が中心だったIMFの教済策とはちがい、インドネシア、韓国、

タイ向けの計画は、金融部門の再編(弱体化した銀行の閉鎖や合併、銀行規制の強化)と構造改革(企業会計基準の改善、政府補助金と、当局が貸付先を指定する融資の廃止、経済の外貨への開放)を目指すものであった。しかし、IMFの折角の支援も性急すぎたきらいがある。「ディ・ツアイト」紙は「韓国をやっつけるのがIMFの狙い。失業の急増と企業倒産で、呪いの声」と報じているほどだ。

経済危機に見舞われているのはアジ

宮塚 利雄

みやつか としお
山梨学院大学
経営情報学部助教授

ア諸国ばかりでなく、日本も同様であるが、いま日本が果たさなければならぬ、役割もある。その一つとして「新宮沢構想」がある。これはアジア諸国の資金不足を解消するために、総額300億ドルの金融支援を行うという構想である。日本がアジアで主導的な役割を果たすためにも、構想の早期実現が待たれる。

欧洲経済の救世主と なるか「ユーロ」

さて、再びヨーロッパに目を転じると、21世紀を前に壮大なドラマが始まろうとしている。1999年1月に欧洲統合通貨の「ユーロ」が創造された。ヨーロッパ各国の枠組みを超えて、通貨主権を共有するという歴史的な挑戦である。ユーロ構想は実現前から成果をあげている。ユーロ導入一ヶ月前に、ドイツ連邦銀行



などユーロ参加11か国の中央銀行は、一斉に利下げに踏み切り、さらには各国とも競って規制緩和や金融効率化に取り組んだのである。欧洲中央銀行(ECB)による統一金融政策は、ユーロを先取る形で、一ヵ月も前から事実上の稼働を始めたのである。

ユーロの紙幣やコインが流通するのは2002年からであり、それまでは企業間の決済やカード、小切手決済などに限られる。ユーロの誕生は第二次世界大戦以後、それまでのドル本位の国際通貨体制を一変させ、ドル・ユーロ双軸時代に突入したことを告げるものである。ユーロの導入により、ヨーロッパ各国は「たそがれの欧洲経済」を見事に再生させたのである。アジアの経済危機と日本経済の危機は、円の信認を失わせており、ドル・ユーロ時代には円はますます存在感を薄めることになる。いずれユーロの影響はアジア各国にも及ぶようになる。日本に今求められているのは、ドル・ユーロ時代に向けた円による対応策を早急に構築することである。

今年もすくすく元気に



きびしく述えの下、ひたすら力を蓄え、芽吹きを待っている
そんな自然のたくましさ、力強さのように、元気に明るく育つといい…。
コンセプトは、地域に信頼され親しまれる店舗創りです。



HAYANO

株式会社 早野組

ISO9001認証取得

本社 ■ 〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL 055-235-1111 (代) FAX 055-235-1109

●リニューアル室 TEL 055-232-0200

東京支店 ■ 〒193-0835 東京都八王子市千人町2-5-24

TEL 0426-67-8800 FAX 0426-67-9497

中部支店 ■ 長野県飯田市篠中平2821-1 TEL 0265-22-3969 FAX 02-2171

新宿営業所 ■ 東京都新宿区西新宿4-41-407 TEL (03) 3376-2897 FAX 3375-7124

静岡営業所 ■ 静岡県静岡市大須2丁目4-7 TEL (054) 246-2903 FAX 246-2510

岐阜営業所 ■ 岐阜県土岐市東郷の木町1丁目28 TEL (0572) 55-2834 FAX 55-0817

熊谷営業所 ■ 長野県軽井沢町赤穂3469-1 TEL (0265) 83-0360 FAX 81-5488

甲府商工信用金庫 和戸支店 施工／株式会社 早野組

企業ウォッチング

株式会社 仲野電機製作所

取締役社長

千野 熊男 氏

ちの くまお



●株式会社仲野電機製作所データ●

昭和20年10月1日発足。昭和28年家庭電化用品の各種部品製造を開始。
29年3月(株)仲野電機製作所と改称。昭和37年3月現在地に本社・工場を移転。
福島県と青森県にも工場を持つ。平成7年、創立50周年記念式典を行う。
〒193-0803 東京都八王子市橋原町290 ☎0426(26)2655(代表)

冬になくてはならない暖房器具、プラグを差し込むだけでジワーリーと暖かさが体中に広がる。私たちが当たり前の様に使用しているプラグの数々…。家電製品になくてはならぬ大切な存在、そんなプラグに、私たちが知らない熱い想いが隠されていた。

■幾多の想いと自分の夢を信じて…

禮貌の背広に身を包み、しっかりとした足取りでソファに腰を掛ける。ビンと伸ばした背筋で向き合った男性こそ当年にとって86歳の取締役社長千野熊男氏。過去、紺綬褒章の受章2回、しかも今年は藍綬褒章の受章代表者として天皇陛下の前でもあいさつをし、今日の(株)仲野電機製作所を電機メーカー業界で不動の地位に押し上げた人物。

実年齢を感じさせない千野社長の涼とした風貌に、今まで歩んで来た数々の経験と実績、そして確かな自信が伺われる。「私は、山梨県の芦安村の出身でね、10歳の頃から家業である材木商を手伝っていたんですよ。同じ年の友達が遊んでいるのが羨ましかったですね」。しっかりとした口調で語り初めてくれた。「山の仕事は、体を酷使する。その苦労は平気だったんですが、発展性のない仕事に疑問を感じ

てね。家出同然で故郷をあとにしたんですよ。その時、母親が父親に内緒で赤飯を炊いてくれてね、どんなつらい時でもあの赤飯の味を思い出し

て、だから今までがんばってこれたんですよ」と懐かしそうに語る。

養蚕教師の資格をとるために家を出て、たゆまぬ努力とさまざまな経験を経て、これからは家庭電化製品の時代が来る直感したと言う。(株)芝浦製作所の外注工場として発足したのは昭和20年。しかし、戦後で低迷した時代に苦労して工作機械を確保しても、受注は焼けモーターの修理やパン焼き器の製造ばかりだったそうだ。

■家庭電化製品のブーム到来、訪れたチャンス！

昭和28年4月(株)ゼネラルのテレビ、洗濯機、冷蔵庫等、家庭電化製品の各種部品製造を開始。翌29年、(株)仲野電機製作所と改称。現在の場所には昭和37年に本社・工場ともに移転した。折しも、家庭電化製品普及の幕開けに差しかかり、同年三菱電機(株)、(株)東芝、(株)ゼネラル、三洋電機(株)等各メーカーにモールド、プラグ付き電源コードの供給を開始した。

昭和41年には、自社で開発研究を重ねてきた、コタツ用電源コードの押ボタン式中間スイッチの一体成型化に成功し、コタツ業界に新風を巻き起こした。

以後も、開発研究にかける情熱は失われなかった。電子コントローラー付きの電源コードの発表等、国内一流メーカーのプラグ部品を一手に受注。最近では、環境保護を考え省エネタイプも増えてきたとか。プラグの販売量は、現在日本国内の約8割を占めているとのこと。

それでも、千野社長の新製品開発の情熱と夢はますます広がり「今、メーカーさんと一緒に新しい製品の開発に取り組んでいましてね。ぜひ、楽しみにしていてください」と言ってにっこり笑う。社長の瞳はいきいきと輝いていた。

山梨青い鳥奉仕団

ボランティアの精神と
奉仕の心があたたかい



理事長の山田照子さん

何かお役に立てればの 思いから

甲府市下飯田の山梨ライトハウスの2階に集まり、それぞれ自分の時間を都合して、定期的に視覚障害者のためいろいろな活動をされている人々がいる。山梨青い鳥奉仕団の方々だ。

現在280名ほどの団員が、自分の得意の分野を中心に、4部門に分かれて奉仕されている。

「私たちの後ろには、目の見えない方がおられるという気持ちが大切なんです。

正しく、丁寧にモットーに奉仕しています。奉仕団の山田照子理事長はやさしく語ってくれた。

奉仕の内容は、大きく4つに分かれます。本などの点訳、読んでテープに起こす録音、1字1字大きな字に拡大してあげる拡大写本、そして、希望の雑誌、新聞、教科書などを読んでテープに録音するリーディングがある。それぞれ視覚障害者にとっては知識や世の中の動きを知るために大切なことばかり。

「昔、熟語を読み間違えて、読者から指摘され、大変恥ずかしかった」と、そ

んなことも今の活躍の支えかもしれない。「創設者の長谷川薰先生の教えが今も生きているんです。一冊でも多く、もっと正しくと頑張っていますが…」。話される言葉には、心に触れる熱い想いを感じられた。

もっと充実した活動が できれば…

これから希望や課題は、の間に山田さんは、「もっと参加者を増やしてゆきたいですね。そして充実した活動で、支えあえる人間関係を深めたい」と、交流会や運動会などでさらなる発展を期待している。

社会福祉制度が大きく変わろうとしている現在、忘れてはならないのは、福祉の主役はその利用者であるということ、そしてその立場に立った視点で、いろいろ考えなければならないことのように思う。

奉仕の心で活動されるみなさんにエールを送りたい。

◆山梨青い鳥奉仕団◆
1986年(昭和41年)結成。盲人の方に一冊でも多く点訳本をの願いから、今では収蔵は点訳、録音図書など8万冊に及ぶ。
理事長 山田 照子
連絡先 〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1
055(222)3502
山梨県盲人福祉センター(点字図書館)



21世紀へのプロローグ ～躍動感に溢れる企業をめざして～

青木茂樹

山梨学院大学商学部専任講師

●ビジョン・デザインが 組織の持続的競争優位をもたらす

21世紀を迎えるにあたって、そこで企業の土台づくりが急がれている。21世紀型企業は、社会に対する企業のあり方、組織の仕組みなど、大きく変化するといわれるが、そこにも決して変わらぬ基本軸があるようと思われる。

その一つは、「われわれはどういった企業でありたいのか」、「われわれは顧客に何を提供できるのか」というアイデンティティやビジョンを持つことだろう。数年前に、「ビジョナリー・カンパニー」という本が話題となったが、そこで語られたことも、長期に渡って良い業績を残している企業は、「こうありたい」という強烈なビジョンを持つ会社だということであった。そこで取り上げられた唯一の日本企業はソニーであるが、ソニーは今や音響機器だけでなく、コンピューターや映画・ビデオソフト、ゲームのハード・ソフトと多岐に渡って事業展開をしている。ここで面白いことは、どこのソニーマンに会っても「他社がやっていない企画を先駆けて提案する、それこそが“It's a SONY”だ」という猛烈な意識を持っていることである。だから、次々と出され

る商品が市場にインパクトを与えるのは偶然ではなく、外からは見えにくいが、大きなアイデンティティが組織全体に浸透していることに起因している。花王も資生堂も、創業当時は、星の数ほどある小さな石鹼屋、薬屋の一つだった。そこから、今や世界を代表する企業として成長したのは同様なるビジョンをしっかりともっていたからである。変化の時代であればあるほど重要なことは、しっかりととした座標軸をもっているか否かであろう。「理想なき現実よりも、理想に支えられた現実」があるから、人はそこに夢をみて汗を流し、一步一歩の成長を遂げるものである。トヨタのエコ・プロジェクトは、自動車業界に新たな競争軸をもたらし、他社の追随を許さないブランド・イメージを市場に確立させた。21世紀での存続を決定づけるのは、もはや規模や量ではなく、「高質な基本価値を追求している企業」であろう。

●コンセプト・システム・コストの バランスが取れているか

こうしたビジョンのもとに、市場ターゲットを確定し、より具体的なコンセプトをもって、各事業が展開される。そこで割と見落とされるのは、ディファレンシエー

ション、即ち差別化の問題だ。どんな事業コンセプトを掲げても、市場から見て何が他社と違うのかを明確にできなければ価値がない。さらに、それがどういったシステムで運営されるかということが問題だ。コンセプトとシステムがかみ合って、初めて顧客は財やサービスを享受できることとなるが、これがチグハグな企業が実際に多い。例えば、ある企業が、オーガニックなどにこだわった厳選素材を提供し、内装も人々の心を蘇生させるイメージにこだわったレストランを出店したが、そこで働く人々のレベルの低さには閉口してしまった。コンセプトまではよくても、実際の運営で実現されることは実に多い。それは組織内のコミュニケーション力の弱さが原因だろうし、その結果、トップの熱い想いがラインまで伝わっていないのである。そして、最後にそれが、どれだけのコストで実現されるかという計算が必要となる。コストに厳しくなりすぎて、従来のコンセプトをなくしきてもならないし、高コスト体質となつても市場には理解されない。

いずれにせよ、企業に人が関わる限り、生命なき秩序ではなく、生命感溢れる混沌のほうが、今の元気をなくした企業には必要な要素なのかもしれない。

早野グループ4社から
一番ホットな情報を届けします

お客様の身になった引越しサービスが私たちの商品です

新年を迎え、これから引越しのシーズンもあります。何かとわざわざい引越し作業ですが、私たち専門スタッフにお任せ下さい。ご家庭に伺って適切な方法をご用意し、あなたのプラン、ご予算に合わせたいいろいろなタイプをご提案いたします。お気軽にご相談下さい。



甲府通運(株)
本社: 中野市田宿町流通園地3329-1 TEL055-273-0611

徳富蘇峰館が建築文化奨励賞受賞

当社で施工した「山中湖文学の森・徳富蘇峰館」が平成10年度山梨県建築文化奨励賞の公共建築等部門に選ばれました。建築文化賞と建築文化奨励賞は、景観への意識啓発などを目的に平成2年に創設され、過去1年以内に完成し、推薦のあった建築物を対象に審査されています。建築文化賞、建築文化奨励賞ごとに、良好な街並景観を形成している建築物等、住宅建築、一般建築物等、公共建築物等の4部門で選出し、建築主、設計者、施工者が表彰されています。



徳富蘇峰館概要

所在地: 南都留郡山中湖村平野506-296
構造: 鉄筋コンクリート造平屋建
施工: 株式会社早野組
設計監理: 株式会社大宇根建築設計事務所
開館時間: 10:00~16:30
休館日: 毎週月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
入館料: 一般300円
お問い合わせ: 電話0555(20)2633

(株)早野組
本社: 甲府市東光寺1-4-10 TEL055-235-1111



クレスタ

2月6・7日「スタコラマジック大感謝祭」

早春、トヨタビスタでは、2月6日(土)、7日(日)の二日間「スタコラマジック大感謝祭」を開催いたします。

好評の「ピスタアルデオ」「ハリバー」「クレスタ」「アリスト」をはじめピスタの人気車試乗会、相談会を行います。

また、愉快なマジシャン出演による楽しいマジックショーを全店舗にて同時開催されますので、ご家族揃っておでかけください。お待ちしております。



オールトヨタ・モーターショー開催!

1月30・31日甲府市大津町のアイメッセ山梨で、トヨタ車が一堂に会してモーターショーが開催されます。この機会にあなたに一番ピッタリの1台にめぐり会えます。



トヨタビスタ山梨(株)
本社: 甲府市御氣3丁目10-21 TEL055-232-5511



トヨタホーム住宅ローン安心保険「ティーサポート」

トヨタホームでは、平成11年3月末日までにご契約をして頂いたお客様を対象に、最長10年間の所得補償保険料を無料サービスするキャンペーンを実施しています。

「ティーサポート」とは、病気やケガで働けなくなった時に、個人向け保険商品では受けられない10年間もの長期補償を、月々10万円を限度に保険会社から支払われる保険です。また、復職しても所得喪失割合が20%を超える場合には、その割合に応じて保険金が支払われます。国内外を問わず、また業務中、業務外を問わず補償の対象となります。

保険金の支払及び補償期間の比較

	ティーサポート	生命保険	損害保険
名 称	団体長期障害所得補償保険	入院特約 通院特約	
病気の場合の保険金支払	○	○	×
ケガの場合の保険金支払	○	○	○
医師の診断による自己療養費	○	×	×
補償期間	10年間	入院120日程度 通院 30日程度	入院180日程度 通院 90日程度

生命保険や損害保険の保険金は、入院費用などに充てられ、「ティーサポート」による保険金は住宅ローンの返済に充てられます。

詳しいお問い合わせは下記まで。

トヨタホーム山梨(株)
本社: 中野市御氣3丁目10-21 TEL055-273-1234 FAX055-273-2806

竹久夢二を知らぬ人はいない
しかしその恋人が山梨出身というと
「え？」と驚く人が多い
夢二の永遠の恋人は…

笠井彦乃

(かさい ひこの)

大正デモクラシーを思い描く人は、誰もがまず「夢二暮情」を連想してしまう。また「宵待草」の竹久夢二に思いを寄せる人も多い。大正から昭和初年へかけて、夢二はまさに特有な美人画で一世を風靡したのである。

この天才詩画人が山梨と大変関係浅からぬものがあり、富士川をさまよったなどといえば、「本当ですか？」と驚く人々が多い。それほど夢二と山梨の関係は知られていないのである。夢二と山梨の関係というのは、夢二の永遠の恋人と謂われた笠井彦乃が、富士川畔の和紙の産地、中富町西島の出身であったからで、その関係者の家に、いまなお彦乃関係の書簡や絵が、貴重な遺品として残されている。

竹久夢二は明治17年(1884)1月16日、岡山県本庄村の醸造酒屋の次男に生まれた。少年時代から絵を志し、一方では青年時代には時代の流れにそって、社会主義運動にも参加している。そのころ早稲田鶴巣町の「つるや」の娘と知り合い、結婚。やがて大正3年日本橋の呉服町に「港や」を開店した。夢二の意匠になる浴衣・半えり・帯などの美術小間物を商う店である。

その店に同じ日本橋で和紙問屋を営

む、笠井宗重の娘彦乃が常連として通うようになり、そのころ夫人環と不仲になり、離婚話のあった竹久夢二と何時しか恋仲になってしまった。彦乃は明治30年生まれであるから、夢二とは13歳違い。そのころ彦乃は東京の女子美術学校の日本画科の学生で、絵画を勉強中であったので、余計夢二に心を通わせ



笠井彦乃18歳のおもかげ

てしまったのであろう。

ところが彦乃の父笠井宗重は、西島から東京日本橋に打って出て、紙問屋を営み、皇室の御用達にまでなった新進気鋭の実業家。教養もあり、その一人娘の彦乃を、当時はまだまったく名もない、しかも既婚の竹久夢二と添わせ

るはずもなかった。

そこから果てしない恋愛の悲劇が始まった。彦乃は父の看護の目をのがれて、当時京都にいた夢二のもとに走り、二人の逃避行がはじまった。しかし、怒った父宗重は住居を調べて強引にわが娘を連れもどしてしまう。彦乃は夢二を恋うて病氣勝ちとなり、大正9年、25歳の若さでついにこの世を去った。肺結核であった。

西島で生前の彦乃を知る従妹の笠井富士江さんに私は逢うことができ、数々の思い出話と資料を見せてもらうことができた。一番惹きつけられたのは、彦乃16歳のおりの美人画だった。どうも自画像らしい。16歳といえば、まだ夢二を知る以前の絵である。

驚いたことにその絵の美しさは繊細で可憐で夢二の美人画によく似ている。私は嘆い入るようにその自画像を見ていたが、画学生として夢二を知る以前にこの絵が誕生しているということは、夢二のあの独特の美人画は、夢二が彦乃の絵に惹かれて次第に感化され、深い影響を受けたらしい様子が浮かび上がってきた。愛に生きるということはそういうことであろう。「比古乃」という落款のかたわらに、薄墨で書かれた短詩「花よ



彦乃16歳のときの自画像の美人画



彦乃の絶筆となった屏風画の自画像

れたわね…』といった、彦乃姉さんの白い顔がいまでも思い出されます。

宗重叔父さんはよく夢二の本などに、物分かりのない頑固者のように書かれたり、彦乃姉さんもまた、ただの夢二の愛人のように書かれてますけど、全然違いますね。叔父さんは書家で教養もあり、紙テープを開発、考案するほどの人で、その人から見たら、夢二は当時はまだ名もない上に、絵かきというと、もう貧乏が看板のような人物でしょう。

それに対して叔父さんにとっては、彦乃姉さんは一人娘だし、親のきめた婚約者まであったんですよ。だからいくら環さんがお姉さんの画才を見込んで、自分が身を引くから日本橋のお店にぜひ来てほしいと説いても、お父さんにしてみては、そう易々と応諾できませんよね。

でも夢二さんはそれこそお姉さんにぞっこんだったんです。私はお姉さんのいくつかの絵を見てますとね、夢二はお姉さんの絵に感化されて大成したように思うのですよ。それこそお姉さんの絵に夢二とサインすれば、わかるなくなるほどです。

お姉さんの絵、どれを見ても泣いている顔なんですよ。絶筆になった晩年の二つ折りの屏風の自画像もそうです。



彦乃の描いたふくさ

お姉さんはこの肖像画のように、縞の着物にね…黒縞子の帯を締めていたそうです。しょっちゅう、こういう恰好でね、写真もありますが、手をこう右手をさげ、左手でその右の手を半分かくすように組んで、やさしい手付をするのが特徴なんです。その彦乃姉さんのイメージが、やがて夢二の憂愁の美人画となって、先生が仰っしゃるよう一世を風靡したのではないでしょうか。

そう語ってくれた笠井富士江さんの言葉には、富士川畔の西島が生んだ、短い生涯を愛に生きた彦乃への哀悼と愛情が滲んでいた。考えてみれば夢二も彦乃も、大正に満っていた新しい歴史の流れに身をまかせ、みずみずしいままで感受性豊かな絵画に夢を託し、清冽なロマンに生きたのである。

夢二はその永遠の恋人、笠井彦乃を通して甲斐の山河を愛し、次の歌を詠じている。

山に寄する 竹久夢二
富士川の水際に立てば名なし草
うす葉にこぼるるもの
富士川やたが吹きすさぶ笛の音ぞ
玲瓏として身は秋に入る
秋の夜は息をひそめてひっそりと
忍びて泣くや草のゆるるは

ボクの美術品観察日記12

広重の描いた白い猫

山本 育夫

やまと いくお

ミュージアム・マガジンDOME（ドーム）／美術品観察AW
(エイ・ダブリュ)／美術批評・鑑賞会批評誌LR (エル・アル)
編集長 週刊朝日に毎週批評連載中

吉原の妓楼から見た風景

妓楼というのは、「遊女を置いて客を遊ばせる家。遊女屋。女郎屋。」のことである。開け放たれた格子窓の外に広がる浅草の田んぼ。もうすぐ明治が来ようとしているこのころの浅草は、一面の田んぼ。夕日が沈み、雁は群れをなしてねぐらに帰っていく。富士山がこんなによく見えたのだと、まずしみじみとする。

部屋の中が明るいのはどこかに行灯がついているせいなのだろうか。この妓楼の近くの築葺き屋根の家にも、明かりがついている風情。静かなたそがれ時のひとときは広重は見事にとらえている。と、まあ、考えてもいいのだけれど、しかし、ちょっと待てよ、夕暮れの田んぼのあたりをよくよく見つめると、ううむ、この黒い点々はなんだろう？(図版1)

実はこの点々、百や二百ではきかないほどの人の群れなのである。画面の右側の外にある鷺大明神(現在の鷺／おおとり神社のこと)へと歴する人たちなのだ。さらによく見るとこの行列、往路と帰路の二列になっているようで、神社から戻ってくる人は(つまり画面左側に進んでいる人)大きな竹製の熊手(落葉などをかき集

める道具のこと)をかついでいることがわかる。鷺大明神の付近にはたくさんの店が出ており、そこで縁起物のお守りや熊手を売っているのである。西の市の「とり」からの連想で、客を「取り」込む、つまり、遊女たちはこの日、客をたくさん取り込めるというわけで大忙しの一日前である。

というわけであるから、窓の外をぼんやりと眺めている猫君の耳には、人々の行き交う賑わいの音が否応なく飛び込んできているわけで、それが証拠に、耳をしっかりとそばだてている。(図版2)

遊女に猫はよく似あう？

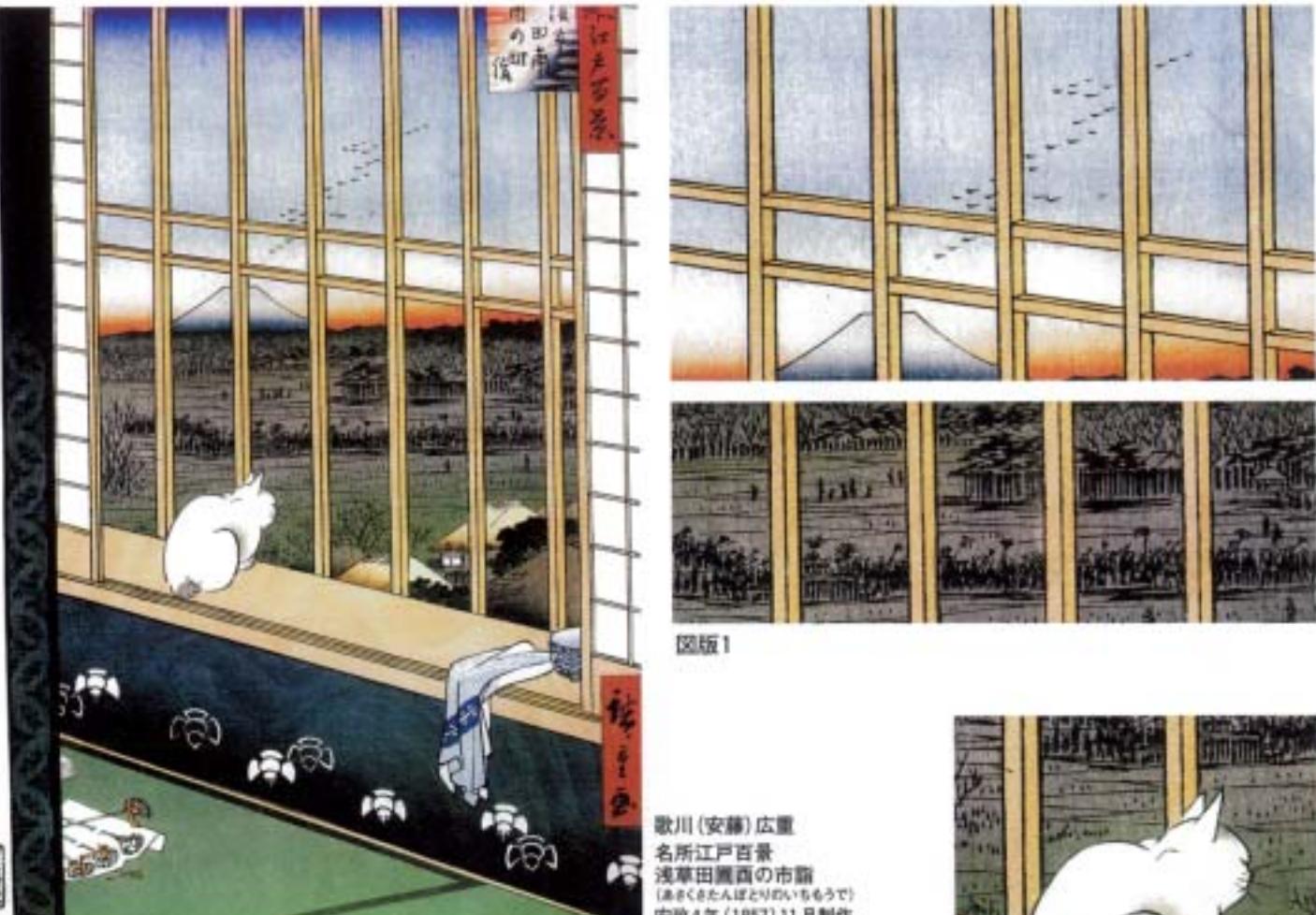
ところで、この遊女の部屋の中はどういうことになっているのであろうかと目を凝らすと、まずは出窓に置いてある大きめの茶碗と手ぬぐいが目に入る。(図版3) 茶碗で口をすぎ、すいだ口元を手ぬぐいで拭いたのである。ではなぜ口をすすぐなければならなかったのかというと、まあ、それはこの部屋が遊廓の部屋であるということからして、それなりに読者諸氏の想像力をたくましくしてみて欲しいところだ。鷺大明神に詣でたあの客が、この遊女の部屋に訪れたのだろう。その証拠に、左下の畳の上に、小さな熊手のかんざしが置

いてある。客が遊女に買っててくれたものなのだろう。彼女はそのうちの一本を手にとってみたにちがいない。(図版4)

かんざしのすぐ上に、和紙の束のようなものが顔をのぞかせていることに気づいた読者もいるだろう。この和紙は、「御事紙」といって、まあ、つまり、「御事」を済ませたあとに使う紙だ。「御事」がなんだかわからないという少年少女は、お父さんに聞きなさい(少年少女は讀んでいないかい)。

つまりである。ここに描かれている光景は、お参りをすませた馴染みの客が「御事」をすませて帰ったあと、口をそそぎ窓を開けて外気を入れ、ほっとひといきついた遊女の(彼女は屏風の向こう側で、布団に寝そべっているにちがいない)その気分を表しているのだ。ひんやりとした風と共に、詣でる人の賑わいや祭のお囃子の音が聞こえてくる。なんとも、大人の、懐かしい、風情ではある。

ちなみに、出窓の下の壁紙に描かれている雀の模様は、「吉原雀」を表しているのだという。(図版5) 吉原雀とは、この絵の意味が読み解けるような、吉原の内情に詳しい人のことを指すという。つまりはこの場合、吉原に詳しい広重自身のことを指しているのだという。



図版1

歌川(安藤)広重
名所江戸百景
浅草田園西の市詣
(あさくわたんぼとりのいちもうで)
安政4年(1857)11月制作



図版4



図版3



図版5

「日本人」ならではの
オリエンタルな魅力に目覚めよう
—アジアンティスト—

チルチルとミチルが幸せの青い鳥を探して旅を続けた末、最後の最後にたどりついたのは何と、自分たちの住む家だった。という話（『青い鳥』メーテルリンク作）をご存じですか？ その兄弟、チルチルとミチルを日本人に置き換えてみたらどうでしょう。白人に憧れたり、黒人のまねをしてみたり、私たちはこれまでいろんな国のいろんな文化に触れて、そのつど素敵に感じたものを採り入れてきただけで、いちばん大切なことを忘れてはいなかっただろう。

地球上で30億人という人口を占め、急速に成長してきたアジア。世界的な潮流の中で今、アジアが脚光を浴びています。日本人にとってはちょっと逆輸入的な感もするブームですが、自分たち黄色人種のルーツでもあるアジアを、この機会に見つめ直してはいかが。

注目集める
アジアンティスト

とにかく様々なアジアンティストが注目されています。ファッションで言えば、スタンドカラーの服やチャイナドレス風のワンピース。インテリアなら、手織りの生地や刺繡の施された布に、椅子や机といった木工家具、燐台や照明、竹や藤で編んだ籠、食器など。美容では、韓国や中国のエステや台湾製のコスメが人気ですし、アロマテラピーとして広まったお香もじつは中国が本場。飲み物では中国茶が、紅

茶と同様に好評ですし、都内では今年、飲茶を楽しめるカフェや月琴や胡弓の音色を鑑賞できるサロンなどが続々登場しました。旅行も、ここ最近の女性誌には“安くて近い”リゾートとして、インドネシアやマレーシア、シンガポールなどが特集されています。

さて、そのアジア。魅力はやはり、素朴さや手作りの温もりが伝わるモノ、気候や風土に育まれたエキゾチックな自然でしょうか。ブームはお金持ちを中心とした骨董的なコレクションもあれば、ナチュラリストの人々が引き金となった回帰路線もあります。いずれにしても、私たちにとっては、親近感の中にどこか新鮮さを覚える、不思議なブームです。



「日本らしさ」って何だろう

いつになく熱い注目を浴びているアジアだけれど、じゃあ日本はどうなの？日



本だってアジアじゃないの？そんな疑問がふと浮かびます。そもそもアジアンティストの“ティスト”は、日本語でいう「…風味」とか「…らしさ」という意味。西洋にとっては、日本も全部ひっくり返してアジア、つまり東洋なんですね。だから西洋人からすれば、異邦人である私たちは、自分たちにはない東洋風（オリエンタル）な魅力を感じるわけ。

ところが同じアジアでも私たち日本人は、今回のこのブームを、自国の文化とした骨董的なコレクションもあれば、ナチュラリストの人々が引き金となった回帰路線もあります。いずれにしても、私たちにとっては、親近感の中にどこか新鮮さを覚える、不思議なブームです。

日本には和紙や和服、和歌、和室といった特有の「和」の文化があります。また“仲良く和む”という「和」の概念もありますが、独自の文化と諸外国の文化とをうまく「調和」して、世界の「平和」をリードしていくなら最高ですね。

冒頭の話でもおわかりいただけるように、私たちが求める幸せは、意外にも身近なところにあると思うんです。だからこれからは、外に目を向け視野を広げつつ、内に秘めた持ち前の魅力にも気づき、磨きをかけていくうではありませんか。世界の中の東洋人として。アジアの中の日本人として。

こんなところに山梨
思いがけない場面で
ふるさと再発見

源平時代、天下に「三与一」と呼ばれ、誉れ高い弓の名手が三人いた。ひとりは、屋島の戦で敵のかざした扇を射抜いた「那須与一」、もうひとりは、石橋山の戦で戦死し、小田原の左奈田神社に祀られている「左奈田与一」、そしてもうひとりが、わが山梨は豊富村・浅利地区出身の「浅利与一」だ。

平家物語において浅利与一は、九尺という丈の長い弓に、十五束という矢を用い、四町先の敵の武将に命中させたといい、また、二町先を走る鹿を射倒したともいう。一尺はおよそ30.3センチ、一束は手のひらの親指をのぞいた四本の指の幅、一町とはおよそ109メートル。ちょっと現代風に置き換えて、浅利与一の豪快さを想像してもらいたい。

また、その活躍は、鎌倉幕府の記録である「吾妻鏡」にも、奥州合戦で手柄を立てたことや、源頼朝の片腕として重んじられているようすが記されている。浅利与一は久安5年（1149）の生まれで、父は甲斐源氏を率いる清

平家物語のなかの花形
「三与一」と讀えられた
甲斐の弓の名手
浅利与一と妻・坂額

光。平安時代から鎌倉時代にかけて豊富村を治め、鎌倉幕府開府に尽力した武将である。

浅利与一をさらに評判にしたのが、嫁取りの逸話だ。浅利与一の妻となつた坂額御前は越後の鳥坂を治める一族で、鎌倉幕府とは敵同士の関係にあった。女性といつても男のような出で立ちで、しかも弓の名手。「吾妻鏡」は、

百発百中の腕前であったとも記している。鎌倉幕府との戦も、この坂額を捕らえたことで勝利を収めたと伝えられる。坂額の名は、鳥坂城付近の地名に由来する。

捕らわれの身となった坂額を、嫁にしたいと申し出たのが浅利与一だった。驚いて聞いた将軍頼家に、浅利与一は、自分と同じように弓の名手ならば、生まれてくる子供もさぞ立派な武将になるに違いない、と応えたという。

結婚を許された浅利与一は、坂額御前を伴い、甲斐に帰った。このとき、浅利与一は53歳だったという。シルクの里として知られる豊富村の丘陵には、浅利与一を偲ぶ歴史文化財が数多く残されている。77歳で亡くなった浅利与一の「層塔と五輪塔」は、鎌倉時代の風格を備え、層塔としては山梨県内唯一の遺構であり、県指定の文化財である。（石）

参考資料：「平家物語」「吾妻鏡」

Book

知りたい ふるさとの地名
「ふるさと地名考」



監修：志摩阿木夫
編集：山梨新報社

たとえ15分でも早く目的地に着こうと、裏道から裏道へと抜ける車の道筋には精通しても、また、赤信号で停まる交差点名は見慣れてはいても、土地のいわれや歴史は知らないじまい、現代人はますます車の目的地ばかりが頭にあるだけで、人生の目的を見失っていく。

本書は、山梨県内の地名にまつわる歴史探訪の書である。通勤や通学の道を、ただ通行するのではなく、楽しさと親しみへと誘ってくれる。人のにおい、土地のにおいが立ち昇ってくる。

すこしばかり問題を出してみたい。次の土地名を、いくつ読めるだろうか。①木賊
②右左口 ③栗生野 ④飯喰 ⑤黒桂沢。

答は①とくき ②うばぐち ③あおの ④いっくい ⑤つづらさわ。

地名や人名は読みなくとも恥ではないといわれはするが、さて、と思う好奇心が、人をふるさとへの関心と愛情へと導いてくれる。

本書の内容は、甲斐の国といわれ、富士山の意味から、山梨全域の土地名に及んでいます。あなたのおじいちゃんやおばあちゃんの生まれたところ、恋人のまちもある。これまで求めたくとも手に入ることのできなかつた本であり、労作である。

あくせく毎日を過ごすだけでは貧し過ぎる。正月は、ひととき、私たちの生活基盤となっている「地名」の意味について見直してみたい。（川） （株）テレビ山梨 ¥1,800

滝を見るハイキング

vol.8 西沢渓谷 七ッ釜五段の滝

写真と文 上野 巍



雪の七ッ釜五段の滝



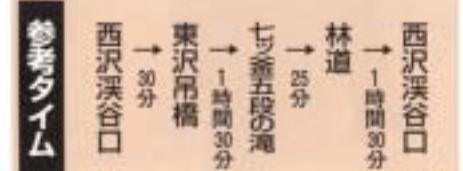
雪が少なくて冷え込む冬には
こんなヅラも見られる



入り口の広瀬湖もすっかり氷に覆われている

やがて流れの右側（左岸）から左側（右岸）に木橋で渡り、やや高巻くと西沢渓谷のハイライト、七ッ釜五段の滝が現われる。一か所で全体を見ることは出来ず、山際を左から右に回りこんでようやく全貌がつかめるというスケールの大きさだ。渓谷に冬は陽が当たらず、蒼く沈んで冷気がこもる。

帰路は七ッ釜から上に抜け出て、古い軌道跡の林道を戻った方が無難である。



新緑や紅葉の好季節には、休日など途切れることなくハイカーの列が続く西沢渓谷だが、冬ともなれば、さすがに訪れる客も少ない。だが雪と水の西沢渓谷には、他の季節では味わえないビリッと引き締まる良さがある。白と蒼の世界に身を置く素晴らしさを一度経験してみよう。ただし、部分的には凍つてもいるし、雪に足を取られる場合もある。軽アイゼン（売店にある荒縄の代用でも応急的には役立つ）にストックぐらいの準備は欲しいし、出来れば経験者の同行が望ましい。

雁坂トンネル開通で賑やかになった



甲府通運前史を訪ねる（12）

（甲府通運のページ）

早野家の始祖は嵯峨源氏

肥前の松浦氏から続く家系

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当



戦国時代の大永五年、早野家開基となった普濟寺

神

奈川県小田原市の、早野家菩提寺である曹洞宗金剛山普濟寺にある、早野宗家系譜碑には、漢文體でつぎのように記されている。

「正三位勲二等小泉又次郎題額 早野宗家は肥前の豪族松浦氏也嵯峨源氏の祖融親王に出づ親王八代孫松浦高俊外祖早野鷹の諱を襲ひ早野と改姓す高俊八代孫刑部丞義起承久乱に忠烈の戦死を遂げ孫右近將監頭弘安役に殊勲を奏す十六代定興子興親孫基親の三世時の足利將軍に仕へ執も從五位下刑部少輔に叙任す十九代基休大永元年堀越公方を致仕し普濟と号して小船に隠棲す配は松浦肥前守豊久女也大永五年子右京進基標父の隠莊普濟禪寺に改む開基普濟寺殿源三休大禪定門即是也基標及子将監基貞共に北条氏に仕へ軍功あり北条氏滅後基貞亦此地に退廻す時の所領梅沢外七郷に跨り里正たり後家運衰頼せるも先代金蔵の奮起に由り復世に顯る早野初祖高俊より現代欽介に至る三十三代八百餘年融親王より四十代千百餘歳を閱す今茲に先塗の傍に碑を建て史実を概勤し以昆に貽す云爾 銘日 山幽水蒼 小船之郷 英靈留比徳風永芳 昭和十一年十一月吉辰 正五位勲四等 平川松太郎撰 広濟寺現

董 廣本賢齋書 早野欽介建之」

少々格式張るが、これを現代風にすると、「早野本家のルーツは、肥前（佐賀県）の豪族松浦氏である。源氏の系統である嵯峨源氏の始祖融親王から八代目の松浦高俊が、早野鷹の名を用いたところから、松浦から早野に改めた。それからさらに八代目の孫である義起は、承久の変（1221）で謙倉幕府方として出陣し戦死。義起の孫である顯は元が襲来した元弘の役で手柄を立てた。十六代定興、その子興親、孫の基親の三代は、時の足利幕府に仕えた。十九代の基休は大永元年（1521）に堀越公方をやめ、普濟という名前で小船の現在の場所で隠居した。妻は松浦肥前守豊久の娘であった。

大永五年その子基標は父の隠居所を改めて普濟禪寺とする。父基休は普濟寺の開基（寺を創設する）となった。子である基標とその子基貞はともに北条家に仕えたが、北条家が豊臣に滅されると基貞はこの小船の地で隠居する。この時の領地は梅沢地区外七地区にまたがり、そ

の村長を務めた。幾代か経るうち家運も盛えない時もあったが、先代である金蔵の世代に家盛も復興することができた。

早野家の初代高俊より現在の欽介に至る三十三代八百余年、それ以前の融親王からだと四十代千百余年となる。今ここに先祖の墓の傍に、この碑を建てて史実を刻み後の参考とするものである」

「早野宗家系譜碑」の題額を書いた小泉又次郎は、大正・昭和期の政治家、慶應元年（1865）生まれ、小学校教員、新聞記者を経て横須賀市議会議員、同議長を経て衆議院議員となり、大正十三年衆議院副議長、昭和四年以降、浜口・第二次若槻内閣の通信大臣、昭和九～十年横須賀市長を経て貴族院議員となつた横浜生まれの政治家であった。

小売りから卸売まで
信用と実績で築きあげた
米穀業50年の老舗

株式会社 米こめふく福

グルメブームと世間でさわがれるようになってから、店頭では豊富な種類の食材が並ぶようになった。お米もしかし、最近では多種多様なブランドのお米が並べられている。今回取材でお伺いしたのは、米穀小売り業の米福さん。創業は昭和25年、お話しをして頂いたのは2代目、代表取締役五味安平氏。

「全県下の、大手スーパー、ホテル、旅館、病院など広範囲に渡って取引をさせて頂いています」県下の取引先は480社にも及ぶ。誰でも知っている大手スーパーからファミリーレストラン、お

寿司屋さんの外食産業、個人の宅配まで一手に引き受けている。

基本方針は、徹底した品質管理と品質の向上、開発、そして年間を通した食味の安定。「新米の時期は、値段の格差はなくどんなお米でも美味しいんですよ。それが、だんだんと風味が落ち品質が悪くなる。通常の保管状態ですと、翌年の新米ができるまで味の保障はできませんね。ですから、年が明けて春ごろから低温倉庫に入れてお米を貯蔵します。休眠状態にして、室温は14～15°Cに保ち、次の新米の時期まで食

味を損なわないように徹底管理するんですよ」と言う。

また、迅速な配達も大切な仕事と話してくれた。「お客様のニーズに親切に応え、河口湖方面から駿北方面、南部方面まで、重いお米の袋をいくつも積んで県内全域を走りまわるんですよ」。

ハイエースは大切なパートナーとなっているようだ。

最近では、お米の需要が少なくなってきたというそうだが、フットワークのよい配達と誠実な商売で売り上げも順調のこと。精米工場も所有し、お米を入れる包装(ブランド名を入れた透明の袋)にも環境に優しい素材を採用、デザインにも工夫している。常に研究心を忘れない前向きな姿勢と豊富な知識が現在の業績につながっているようだ。

今回のハイエース購入は、知人から紹介されてとのこと。誠実な流通サービスとお客様の信頼関係を深め、地域に根ざした米穀小売り業を目指している米福さんにとって、力強い足まわりを誇るハイエースワゴンの存在は大きい。

〒400-0041 甲府市上石田4丁目16-10
TEL 055-228-4202(代)



米福本店前



趣味の空間も
見事に取り入れた
使いかっての良い家

越中 宏治さん宅(甲府市)



設けられ日差しを取り入れる工夫がなされている。

今回トヨタホームに決められたのは、「妻が外観のデザインを気に入りましたね。昭和展示場を見学しに行ったところ、営業担当者の高野さんに熱心に薦められたんです」。「メレーゼ・プレミア」は外壁の掃除が楽で、重厚な趣のジェルトップを採用している。この辺も越中さん的心を動かしたそうだ。高野さんは親身にいろいろと相談にのってくれたとのこと。「設計も最終段階で、当初南玄関だったのを西玄関に変更するという大幅な無理も聞いていただいて…」と。

外に出ると、家庭菜園をするので用土が盛ってあった。奥様と2人暮らしの越中さん。趣味が絵画と家庭菜園なんて、とてもゆったりした空気が流れる家だ。これからも新居で、素晴らしい絵を描き仲良く幸せに暮らしてください。



会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

「厄地蔵サン」

渡邊 貴市

わたなべ かんいち

古跡研究会理事・山梨県史編纂専門調査員



盆地の中央、甲府近郷の春は祭りで開ける。

大神サンの名で親しまれる柳町(中央四丁目)と、横近習町(中央二丁目)の大神宮の豆まきが節分の日で、同じ二月十日・十一日が三恵(若草町)の十日市、つづく十三・十四日が厄地蔵サンである。

厄地蔵サン。湯村温泉郷の北のはずれ、塩沢寺に祀られた石の地蔵様の祭りである。靈験あらたかで、十三日の正午から十四日の午前中、一年中でたったこの丸一日だけ耳が開き、この間にかぎり、どんな願い事も聞き届け、厄難を払ってくれるという。

男二十五歳と四十二歳、女十九歳と三十三歳の厄年や、前厄・後厄、その他もろもろの厄払いを祈願する善男善女が、この日県内はもとより遠く県外からもやって来て、夜通し地蔵堂は大混雑の賑わいをみせ、その数は十万人をこえるといふ。

昔は厄地蔵サンの頃は、立春は過ぎてはいるがまだ寒かった。

甲府の街から厄地蔵サンに行く途中は塩部田圃だった。塩部のお地蔵さん横の現在の駐在所から西にのびる関屋往還の北側道路沿いには、ボブラーの

大樹がずっと並んで立っていた。その北側は湯村山まで広い練兵場であたり一面原っぱと田圃ばかりで人家はなかった。

八つ年上の、十九の厄の姉に連れられて、紙に包んだ厄年の数の十九の米粉の団子を、こごえる両手で握りしめ襟巻で頬かぶりし、縮入れ半纏で身をおおい、八ヶ岳おろしの吹きさらしを前こごみになって息をはずませながら三々五々道を急いだ。ようやく湯村の集落に入ると、だるまや縁起物を飾る露店がずっと両側に並んでいた。屋台からはオデンの匂いがただようなかで、ようやく暖まった体は人いきれで一層あつくなり、雜踏のなかを、夜店のおもちゃを横目でにらみながら、姉にぐいっと手を引っ張られ、後からせき立てられて、立っているだけで厄地蔵サンの前まで連れて行ってもらえそうな混雑のなかを、大人の間で押しつぶされそうになりながら、ようやく石段を登りつめて地蔵堂の前に立った。爪先立って薄暗い堂内に目をこらすと、どすの利いた声で読経する坊さんたちが踊るような仕草で護摩をたいていた。赤々と怪しげに燃える炎の向こう側に、黒々とした巨大な塊のように見えてい

るのが「あれがお地蔵様か」と、不思議な思いで姉にまねて、お地蔵様に両手を合わせた幼い頃の一齣が、あざやかに脳裏をかすめる。

厄地蔵サンに連れて行ってくれた姉はもういない。その後厄地蔵サンに行かないまま数十年が経ってしまったが、今年も変わりなく、峠中に春を呼ぶ厄地蔵サンが間もなくやって来る。

「ささやかでもいい。ほんの小さな幸せでもいい。私にそれをお与え下さい」と、かなわぬと知りつつ心のうちに願い、「みんなが仲良く助け合って、災難がやって来ないように、平和な世になりますように」と、祈る心、そう心に念じながら手を合わせる人の心とその姿が、かぎりなく素直で純で美しい。人々は本当は、悲しいから明るく、苦しいから前向きに、春を呼ぶ祭りをいとおしみながら、心を込めて我が願いをお地蔵様に託すのである。厄地蔵サンはそんな祭りである。

心やさしく、善良な人々によって、厄地蔵サンは今年も賑わいをみせるにちがいない。今年は私も、なにはともあれ出向いて行って、お地蔵様に久しぶりにお会いして、平素のご無沙汰を心の底からお詫びしたい。

「お客様の気持ち」があってこそ 物語る30年の功績

甲府通運株式会社 田富営業所
主任・輸送リーダー 入倉 尚さん (甲西町) 57歳



数々の経験を経て今…

「ひととおりの運送・運搬業は経験しましたよ」と深いしわにきざまれた笑顔で応えてくれた入倉さんは、昭和42年に入社した運転歴31年の大ベテランドライバーだ。

路線運転手12年、国鉄代行便運転手3年、貸切運転手7年、集配運転手2年、区域運転手1年と長年にわたり様々な運転経験をたどり、北は北海道南は九州と日本全国を駆け巡り、お客様の大切な荷物をお届けした。

平成4年からトヨタ自動車住宅輸送部門の輸送リーダーとして活躍している。

「建築部材を運ぶ車の手配から、確実に時間厳守で荷物が搬入できるまで、全ての日程を把握していかなければなりません。私個人だけではありませんから、チームの協力と和が大切です」と全てへの気配りをわすれない。

「お客様が一生の想いを託す家を造るのですから、ちゃんとしてやらないと」と入倉さん。

功績が語る仕事への情熱

入倉さんは無事故無違反の30年間模範運転手として数々の表彰を受けてい

る。山梨県トラック協会、全日本トラック協会より金賞をはじめ山梨陸運支局長、関東運輸局長等、名誉ある賞の最高位を得ている。この時代、長年にわたり無



たり、不機嫌にもなります。だから整備も入念にしてやらないと…』と、なるほど自己管理は自分の体だけではない。

『交通情報や気象条件も十分把握して、即対応することが無事故には大事ですよ。それが、仕事での安全や無事故にもなっているのではないかね』と話され納得。

『子供達はそれぞれ進む道を決め、ようやく安堵しました。我が家にいる時間が少ないので、妻には迷惑や心配ばかりかけています』。

精神的にも厳しい面があると言うが、家に帰るとホッとするようだ。「応援してくれる気持ちに、これからも応えていきたいですね」。

お酒はまったくダメ、気分転換とストレスの解消はの間に、休日には趣味のハンティングでかけたりと楽しんでいるようだ。

『睡眠時間を十分にとって、食事にも気を配ることが、何よりこの仕事には大切です。それから仲間との協力もね…』。

健康に気をつけて、安全運転でこれからも運転を続けて下さい。入倉さんは内に秘めた向上心を持って、ますます仕事に意欲をみせていた。

[取材:相川礼子]

おしゃれ

オギノリバーシティ MATSUMO
international



流行にまどわされない 個性豊かなエレガントなファッショニ

オギノリバーシティの北口を、入ったすぐ右に、目につくハイセンスなディスプレイ。シックな色づかいのものからバステル調の色づかいのものまで、店内には幅広い色彩があふれている。「素材にこだわり、お客様に長く愛される洋服をご用意しています」笑顔で答えてくれたのは店長の古屋和枝さん。

洋服選びに大切なのは、目的と場所に合わせて着ること、そして着て見たいと思う心だそうだ。イメチェンしたいけど自信がない人や、冠婚葬祭など格式ある場での洋装に悩んでいる人は一度訪れてみては。きっと満足されるはず。好きなだけゆっくりと試着するのもここではゆるされる。もちろん押しつけたりもしない。気に入って娘さんとお母さんで同じ洋服を着ている人もいるとか、この店では年齢は関係ないようだ。

「スカート丈が3~4cmちがうだけで印象が全然変わってくるんですよ」説得力のある言葉に納得。店内の豊富な品揃えとハイセンスなファッション、そして、店長さんの的確なアドバイスとコーディネート、きさくな人柄に惹かれて来店するリピーターが多いのもうなづける。

営業時間 10:00~21:00

定休日 水曜日(月1回)

所在地 中巨摩郡田富町山之神

オギノリバーシティ内1F

TEL 055-273-8966



たべる

割烹「ゆう」



選りすぐった素材を用い 四季折々の料理が楽しめる店



今年の6月1日にオープンした割烹「ゆう」。京風漂う雰囲気と店内のいたるところには四季折々の花が飾られ、着物姿の仲居さんが出迎えてくれる。個室に分かれているので、落ち着いたなかで食事が楽しめる。

料理は5000円からのコースになっており、季節に合わせた食材を吟味して調理してくれる。「素材はその日の朝、市場から取り寄せます。新鮮なものを食べていただきたいですからね。前もって御相談ください、御要望に応じて調理いたしますので気軽に声をかけて下さい」と店長の宮下雄一郎さん(25歳)。各地を巡って様々な料理を味わい、研究した味は一流だ。

この時季のお勧めメニューは河豚刺しやてっちり鍋。お酒も多く取り揃えてあり、料理に合わせてお好みの銘酒が楽しめる。

腕によりをかけ、真心こめて造り出す味を、一度味わってみてはいかが。家族連れやカップルの方をはじめ、各種御宴会、時に合わせた催し等に最適。

要予約
営業時間 17:00~22:00

定休日 毎週日曜日

(法事や結納など前もってご予約いただいた場合には営業いたします)

所在地 甲府市上小河原1189-7
TEL 055-243-4451



お茶の間の民俗学(10)

—ふるさとの心と味(5)—

供え餅とおせち料理

志摩 阿木夫

しま あきお
民俗学研究者

供え餅

山梨では「おそなえ」とか「おすわり」と呼ぶ歳神さま(正月さま)の御座所として供える餅で、大小ふたつの丸い餅を重ねたもので、民俗学者の柳田国男の説によると、この形は人間の心臓を象ったものだという。なぜ心臓なのかというと、歳神さまは毎年家々を訪れて、人々が新しい年を迎えるに当たって、その年を生きる力と、働くことができる力を持つてくれるのだと信じ、そのため生きる原動力となる心臓に、新しい力をいただくという観念によるのだといふ。

歳神さまは家々を訪れて7日間、この供え餅を御座所として滞在し、人々と交流して幸せを与えてくれるので、お正月は1年のうちで最もめでたい時となるわけである。

山梨の人たちが「おすわり」と呼ぶのも、歳神さまが「お坐りあそばすところ」という意味と理解すればよいのである。

その「おすわり」を飾る場所は、当然家のなかで最も神聖なところでなくてはならないので、普通の場合奥座敷の床の間とし、ここに三方に載せた供え餅を飾るが、三方には縁のない白紙を敷き、その上に松や杉の常緑樹の枝葉を置いて、そこへ供え餅を置き、神さまの御座所である印しとして枝垂を吊り上げ、餅の上には邪氣を追い払うための匂いの強い柑橘類を置く。山梨あたりでは「ころ柿」を添えるところもあるが、柿は「幸せをかき集める」という諺呂合せ

によるもので、少々欲の深い祈りである。

供え餅をつくる日を12月28日か30日とする理由は、29日は9という響きが「苦」に通じるところから避けられ、31日は歳神さまが夕方になると訪れるので、ぎりぎりになって供えるのは誠意が欠けているという意味を持つことになるので、この日も避けている。

おせち料理

漢字で書けば「御節料理」である。1年の節目に作る料理ということで、12月31日の夕方から家々を訪れてくる歳神さまに歓迎の心を表して供える料理のことである。神さまに供えた料理をこの日の夕食に一家揃っていただく。いわゆる神人共食をすることによって、人々は新しい年に生きて働く力をいただけると信じていた。この夜のことを山梨では「おもっせ」と呼んでいるが、これは「望背」に敬称をつけた「御望背」のことであろう。古い時代のお正月は1年の最初の満月の夜がその年の出発点となっていた。望とは満月、つまり望月で大晦日はその望の背にあたり、1夜明けると新年となるので「望の背」と呼んだと思われる。

おせち料理はその年に汗水流して収穫した作物を素材として調理したもので、歳神さまからいただいた力で生き抜き、かつ働いて得た作物で、「このような料理を作



ることができました。ありがとうございました」と感謝の意を表し、また「新しい年にも生きて働く力をいただきたい」という祈りを籠めた料理であるから、これには最大の誠意とありつけの贋をつくした。

なおこの夜除夜の鐘を聞きながら「年越しそば」を食べる習慣があるが、これは歳神迎えとは直接関係がない。江戸時代小判を鋳造するところを「金座」といい、ここで1年中作業をすると金の粉や小さな端片が床に落ち、それが床板の間に溜まるので年末大掃除の際にそば粉を練ってこれで床板の間に溜まったゴミと一緒に取り込む。最後に水で溶かすと金は重いので下に沈みそれを集めると、また小判の材料となる。「金を集めるために」ということからそばが利用された。江戸の庶民はこれを「金を集めるために」と読み取って、新しい年にもゼニがたくさん集まるように、と願いをかけてそばを食べた。いつの世も人の欲望は変わらないものである。

・アメリカ中学生の非行

—社会に適応する能力とは?

・インターネット上でのクレジットカードによる販売

—恐くとも手放せないこの便利さ



×月×日

日本で一時期、中高生の「いじめ」の問題が話題となったことがあったが、アメリカでもいわゆる「不良」は、かなりの社会問題となっている。大体、拳銃でもなんでもありの国である。アメリカの公立中学では、学校に拳銃を持ってくる子供のチェックが必要であり、お金持ちの子供が通う私立中学では、学校の周囲にたむろする麻薬密売人の排除が当面の課題となっているとも聞く。その報道を見ていて、非行学生に2つの特徴があることに気がついた。

第一に、社会に対する「適応能力」の不足という、自分が楽しいこと、やりたいことばかりして、自分を犠牲にして社会に適応することを知らない点である。

第二は、押さえがたい自己保存の「欲求・欲望」と言う点である。

誰でも、「やなやつ」つまり自分と合わない他人が存在する。それを消去してしまいたいと言う欲求が強すぎると、例えば、学校で教師に向かって拳銃を発射するというような事態を引き起こすことになる。

「社会に対する適応能力」に問題がある場合は、教育によって解決することが比較的容易であり、「欲求」が強すぎる場合は、それが本能に起因するが故に解決が難しいと言えるだろうか? いずれにせよ、私

には、両方のバランスが大切なように思われる。強烈な欲求と、生存本能を持ちなが、強力な自己規制と使命感によって「英雄」となる例などいくらでもあると言えるから。

×月×日

もう日本にも紹介されていると思うが、アメリカで最も注目を浴びているハイテク最新企業の一つに、Amazon.comがある。インターネットのアドレスをそのまま会社名にしてしまったもので、アマゾン・ドット・コムという社名は、株式市場で急成長した会社として有名である。内容は、音楽、雑誌、および書籍などの販売だが、その特徴は、販売全てをインターネット上で行うと言う点にある。特に音楽CDを購入する時などは、お

目当てのCDを探すためにタワー・レコードに行って物色するよりも、ネット上で検索した方が早いに決まっている。時には、その音楽がどんなものか、ネット上で体験することも出来る。その他、インターネットでの販売の利点は、枚挙にいとまがないので、昨年のクリスマス・セールは、この手のネット販売が花盛りと言った状況であった。

パソコン中毒の私もご多分に漏れず、飛行機、ホテルの予約から、銀行の残高および電気・電話料金の確認、手ごろなレストランの検索とネットにアクセスしない日はない

いと言っても過言ではない。しかし最近この傾向にちょっと恐怖を感じている。と言うのは、クレジットカードの引き落としの際に不都合なものを見つけたからである。

普通アメリカでも原則的にはカードからの引き落としには、本人のサインが必要である。ところが、ある会社からの請求は、購入した覚えの無いサービスについて請求されていたからである。ばかげているので、カード会社に連絡し支払停止の要求をすると、本人で該当の会社に電話してくれと言う。

金額が30ドル程度と小額なので、放置してあるが、良く考えるとこれは恐ろしい。この会社は、どうもカード会社とある程度の関係があり、そこからカードの番号(暗証を含まない)を手に入れ、請求を起こしたようであるが、この手を使うと、小額請求を多くの人に自動的に起こせることになる。これは現行の法制度の下で、最もたちの悪い犯罪の一つで、一人から1億円だまし取ったら訴えられるが、100万人から100円だまし取っても、訴えられないという点を突いている。

こんな性格のアメリカのクレジットカードを恐いとは思うが、ガソリンスタンドなどでガソリンを入れる時に便利なので手放せない(日本のカードは使用不可)のは、私がルーズだからでしょうか? [文: 杉村 聰]